

# ふじみボラ・地域活動情報

NO.2

平成25年11月1日 発行

発行元:富士見町ボランティア・地域活動ネットワーク準備委員会  
事務局:富士見町社協 地域福祉係  
長野県諏訪郡富士見町富士見 8988-1  
☎:0266-78-8986/ FAX 62-6772  
email:fureai-s@fujimi-jp



秋の色、というとどんな色を思い浮かべますが。近年は、ハロウィンが日本にも浸透しているということで、山だけでなく町中も、オレンジ色に染まっています。さて、この情報誌も No.2 を迎えました。みなさんでご覧いただければ幸いです。

## 「ボランティア・地域活動 情報交流市」を開催しました！

活動している人も、していない人もだれでも寄って、情報の交換や交流をしよう…ということをめざして行なわれた情報交流市。

当日、9月28日には会場のコミュニティプラザに、約60の方がつどい、和気あいあいの中での情報交換、いろいろなおしゃべりに花を咲かせました。

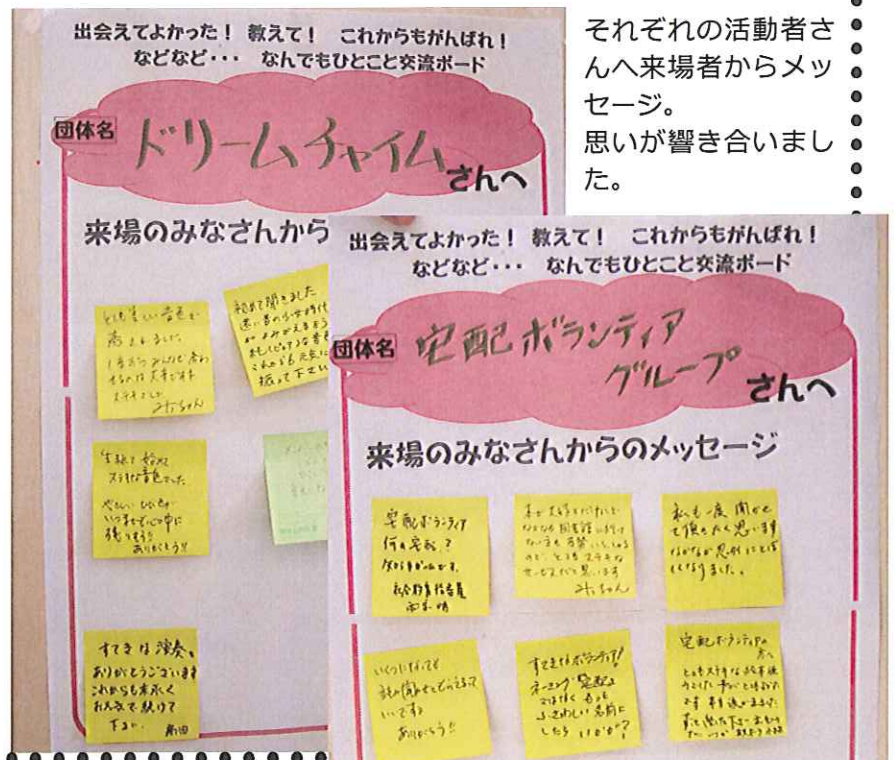
各団体のブースは、手づくりの活動ポスターを掲示したり、関連グッズを並べたり。見て楽しい、話して楽しい会場となりました。



活動の一部を工夫して体験させてくださる方も。作ってしゃべって知り合って。



活動の実演コーナーも大好評。活動者同士の癒しあえる時間にもなったのではないのでしょうか。



それぞれの活動者さんへ来場者からメッセージ。思いが響き合いました。

「自分たちの活動を一人でも多くの方に理解してもらえたと思う。」「改めて自分たちの活動を振り返る機会になった。」…と活動者からは「参加してよかった。」という声が多く聞かれました。

地域活動やボランティア活動に興味を持った方であれば、どなたでも気軽に寄り合える場や機会を、今後もっと作っていこうと思っています。次は、ミニ講演会を企画中です。ご提案もお待ちしています。

■ 傾聴ボランティア活動をしてみませんか  
傾聴ボランティア「やまぼうし」の仲間を募集

「自分の存在を認めてほしい」  
「安心して誰かに思いを話してみたい」…  
そんな思いを持っている方とお話ができて、  
一緒に「いい時間が過ごせたらうれしいね」  
との思いから、「お話をお聴きする上で心得  
ておくマナー」等を少し勉強して集まった  
ボランティアの会です。



ぜひ一緒に、傾聴ボランティア  
活動をしてみませんか。

【お問い合わせ先】  
「やまぼうし」代表 高山さん  
☎ 62-5301 まで

■ 富士見町内 ボランティア・地域活動等  
「活動ポスター展」のご案内

情報交流市に向けて各団体が手づくりした活動ポスターを、広く一般に見ていただく機会を設けました。情報交流市の報告とともに掲示します。ぜひご覧下さい。

期間：12/6（金）～ 20（金）

場所：富士見町コミュニティ・プラザ 1Fロビー

また、今から作ってみたい、掲示したいという団体、個人の方も大歓迎です。材料、作成スペース等 社協にありますので、お気軽にお声掛けください。

富士見町社協 地域福祉係 電話 78-8986 まで

■ 本紙の名前募集します

この「ボラ・地域活動情報誌」の、すてきな名前を募集しています。おもて面の、ネットワーク準備委員会事務局まで、ぜひお気軽にお寄せください。

まちを元気にするヒト・コト・モノ…  
みーつけた!!

代表の小林正敏さんに聞いてみました

長く続いてきた理由は为什么呢？  
「やっぱりみんな、地域の子どもはかわいい、と言ってくれている。自分たちで見守ろう、と思う気持ちかな。」

今後はどんな風に活動できればよいと考えていますか？

「今後もぜひ続けていきたい。それに、外に出て、歩いたり、子どもと話したりするのは有酸素運動にもなる。ぜひ隊員の健康維持にも役立てばいいと思っています。」

小学校でも「車どおりの激しい道を帰っていくので、パトロール隊の存在がとても安心です。」というお話でした。  
子ども達にもインタビュー。「みんなと、おじさんと帰るのは楽しい。」



平成十七年に小学校の呼びかけで有志が集まり、今年で九年目。現在はおよそ七十代の男女十数名の桜ヶ丘区住民が活動しています。メンバーは、本郷小にお孫さんがいる方だけではなく幅広い参加です。

毎日、集団下校する本郷小学校の子ども達。この子ども達と一緒に歩き、見守る人たちが「桜ヶ丘活き活きパトロール隊」の皆さんです。低学年、高学年それぞれの下校時間に合わせて、子ども達を帰りの道で迎えています。

桜ヶ丘「活き活きパトロール隊」

ボランティアソレーニラム

さん・ば・み・ち

芸術の秋。我々も絵画の世界を訪ねてみましょう。かの有名なフランスの巨匠ミレーの「落ち穂拾い」です。

中世ヨーロッパでは麦畑など刈り入れを済ませた後の一定期間、働けなくなった老人、寡婦や孤児など、弱い人、貧しい人たちが救済する手立てとして、落ち穂を自由に拾えるよう畑を開放することが村の掟だったそうです。

所変わり日本でも、北海道海岸で昆布で生計を立てている集落では、「流れ昆布は健康な者は拾うな」と言い伝えられているそうです。これは、流れ昆布は容易に拾え、かつすぐにお金に換えられることから、健康でない人に譲るというものなのです。

落ち穂拾い、流れ昆布拾い、いずれも弱い人々を温かく見守りながら生計を支える、というボランティア的な計らいでしょう。またこれら地域での助け合いが、コミュニティの原点かもしれませぬ。

と、考えながら落ち穂拾いの牧歌風景を目に浮かべています。



(おじやま虫)

晩秋